

(件名) 新型コロナ感染拡大防止のための「QRコード認証」について

10月頃から新型コロナウイルス感染症の急拡大に見舞われたロシア。経済活動と感染拡大防止の両立を図るため、飲食店や公共施設等への入場の際にワクチン接種歴等を示すQRコードの提示を義務付ける地域が増えています。ウラジオストクを含む沿海地方でも、10月末から飲食店やショッピングモール等へ入場する際にQRコードの提示が義務付けられ、市民生活の様相が徐々に変化しています。

1 QRコードの取得と利用方法

QRコード認証は Госуслуги（ゴスウスルーギ）という連邦政府の電子申請システムを活用した、主にロシア国民を対象とする制度です。このシステムに登録している人がロシア製のワクチンを2回接種またはコロナに罹患すると、医療機関を通じてワクチンの接種記録や既往歴が登録され、QRコードが発行されます。

食料品と薬局以外の店に入店・入場する際にはスマートフォン等でQRコードを提示の上、店の従業員がコードを確認して接種歴等に問題がなければ店内に入ることができます。

なお、政府の電子システムを利用できないビジネス旅行者などの非ロシア国民は、QRコードの代わりに48時間以内に受検したPCR検査の陰性証明を提示することとなっています。

2 沿海地方における「QRコード認証」導入の経過

人口約200万人の沿海地方では、今夏には新型コロナの1日当たり新規感染者数が200人程度で推移していましたが、10月中旬頃から感染者数が急増し、連日最多を更新し出したことから、サービス業等の広範な業種の従事者に対するワクチン接種義務化など、様々な対策が矢継ぎ早に導入されました。

QRコード認証については、10月29日に沿海地方政府から「11月中旬から認証制度を開始」との発表がありましたが、感染の急拡大を受け、翌30日から急遽制度が導入されました。さらに対象施設が順次拡大され、11月30日からは薬局を除くすべての非食料品店で提示を義務付けられています。



百貨店入口にてQRコード提示とマスク着用を求める掲示

3 実情と課題

いち早くデジタル認証を導入した沿海地方政府ですが、実際に生活していると、制度の浸透にはなお課題があると感じます。QRコード認証が義務づけられていても、実際に提示を求めると否かは事業者や従業員の判断による部分が大きく、厳格に運用しているショッピングモールや飲食店もあれば、小規模な店では提示すら求められないこともあります。

また、接種歴を読み取るためのスマートフォンのアプリは、連邦政府の社会保険番号を所持していれば誰でも簡単に利用することができるため、個人情報管理への懸念から抵抗感を持つ人々もいるようです。

感染拡大防止と社会経済活動の両立は各国共通の課題であり、今後も沿海地方を含むロシアの施策についてフォローしてまいります。